

二国間経済連携協定（日尼 EPA）に対する評価

- 帰国したインドネシア人看護・介護職に対するパイロット調査から -

○長崎大学 平野 裕子
University of Indonesia Tribudi Wahyuni Rahardjo
Jenderal Ahmad Yani School of Health Sciences
Susiana Nugraha

1 目的

本研究の目的は、日本インドネシア経済連携協定（以下「日尼 EPA」）で既に帰国した者の帰国理由、日本での就労に関する満足、日本での生活上の達成度等の各項目について、日尼 EPA に対する総合的評価との関連を、渡日した際の日尼 EPA のコース（看護師コースか介護福祉士コースか）毎に比較することである。

2 方法

本研究では、2015年12月に、在インドネシア日本国大使館が主催したジョブフェア（就職説明会）に参加した者を対象に、無記名による調査を行った。調査票の項目は、基本属性－性別、年齢、渡日年と帰国年、学歴（看護課程を修了したか否か）、日尼 EPA のコース、結婚形態、子どもの有無－、日本で国家資格を取得したかどうか、日本語能力試験の検定の合格の有無とそのレベル、インドネシアへ帰国した理由、日本での就労に関する満足度、日本での生活上の達成度、日尼 EPA に対する総合的評価等である。あらかじめ本調査の内容を説明し、同意を得られた者に対して回答してもらい、その場で回答した。なお、本研究は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻倫理委員会の承認を得て行った。

3 結果

本研究の対象者は、看護師コース 16 名、介護福祉士コース 14 名を含む、計 30 名である。帰国した理由は、「インドネシアでキャリア発展を目指したいから」(86.2%) が最も多かったが「日本に数年滞在し、貯金ができたから」と回答した者は 37.9%に過ぎなかった。なお、帰国した理由について、看護師コースと介護福祉士コースで比較したところ、点数の分布に有意な差は見られなかった。日本での生活上の達成度については、看護師コースよりも、介護福祉士コースの方で、有意に高かった ($p<0.05$)。

また「日尼 EPA に参加したことに対する満足度」については、96.6%の人々が「満足・どちらかと言えば満足」と回答していた。また、それに関連する要因は「給与・手当等に対する満足度」($r=.501, p<0.01$)「日本での仕事全般に関する総合的評価」($r=.420, p<0.05$)の順で強い相関があった。しかし、EPA コース毎に分析をしたところ、介護福祉士コースでは「日尼 EPA に参加したことに対する満足度」に有意な相関を持つ因子はなく、看護師コースでは、「給与・手当等に対する評価」($r=.617, p<0.01$)「日本での仕事全般に関する総合的評価」($r=.589, p<0.05$)「医療専門職としての自律性の度合いに関する評価」($r=.509, p<0.05$)の順で相関が強かった。

4 結論

本研究では、看護師コースと介護福祉士コースでは「日尼 EPA に参加したことに対する評価」に関連する要因が異なることが示唆された。介護福祉士コースでは、日尼 EPA に対する評価により強く関連する因子は見られなかった反面、看護師コースでは、給与や仕事全般に対する満足度、そして医療専門職としての自律性を発揮できた度合いがはっきりと表れていた。一方、日本での生活全般に関する達成度は介護福祉士コースのほうで有意に高かった。介護福祉士の業務は、一部看護師と重複しているが、看護師よりは業務範囲が限られている。このため介護福祉士コースは比較的達成感を得やすい反面、給与の高さや仕事の専門性に、日尼 EPA で渡日してよかった、と感じるような強力な特徴を持たないことが、この結果に影響していると考えられる。